



「ロシアにおける日本年」「日本におけるロシア年」

日本武道青年代表団ロシア連邦派遣事業

武道で日露の友好親善に大きく貢献



安倍・プーチン日露両首脳
の合意に基づく国家的日露交
流事業として、「ロシアにお
ける日本年」「日本における
ロシア年」日本武道青年代表
団ロシア連邦派遣事業（主催
Ⅱ日本武道館、日露青年交流
センター、日本武道協議会、
ロシア連邦スポーツ省、ロシ
ア武道連盟、ハバロフスク地
方政府、後援Ⅱ外務省）が9
月30日から10月5日の日程で
実施され、臼井日出男日本武
道館理事長を団長とした総勢
44名（現代武道9道・各武道
40歳以下で構成）の日本武道
青年代表団がロシア連邦ハバ
ロフスク市に派遣され、武道
文化セミナー、武道演武大会・
ワークショップ、現地武道団
体との交流指導稽古会を行う
など、日露両国民の相互理解・
友好親善に多大な成果を上
げ、日露武道交流史に新たな
歴史が刻まれた。

9/30

結団式・壮行会

出発当日の10時30分より、成田空港第2ターミナル4階待合室で「結団式・壮行会」が行われた。最初に総員44名の結団を行い、壮行の言葉を中里壮也全日本柔道連盟専務理事が述べた後、白井日出男団長が武道団を代表して挨拶を述べた。続いて来賓挨拶、乾杯の発声を沖本康成日露青年交流センター事務局長が行った。歓談を挟んで、閉会の挨拶を三藤芳生日本武道館常任理事・事務局長が述べ、壮途を祝して全員で万歳



壮途を祝して万歳三唱

三唱を行い、結団式・壮行会は盛会の裡に終了した。

結団式・壮行会が終わると、派遣団一行は成田空港を出発。日本との時差はプラス1時間、約3時間のフライトで現地時間18時25分にハバロフスク国際空港に到着した。そこから、バス2台に分乗、アムール川を眼下に望む宿舎・ソブカホテルへ移動し、翌日からの日程に備えた。

10/1

急遽、地元テレビに生出演

気温8度、一夜明けけると派遣団を歓迎するような青空が広がった。



宿舎からアムール川を眼下に望む



番組「グベルニアの朝」で剣道を披露

早朝、急遽、地元グベルニアテレビ局の強い要望で、番組「グベルニアの朝」に「剣道」の亀井隼人、村瀬諒の両団員が出演することになった。観客動員に繋がればと、吉野喜信日本武道館振興部長を先頭に快く市内のスタジオへ入った。解説はドミトリー・チェクノフ・ハバロフスク州スポーツ体育副大臣が行う手筈になっていた。特に打合せはなくぶっつけ本番。二人が激しい気合とともに剣道の基本打突と切り返しを披露した。スタジオは「日出づる国」の剣豪の気迫に圧倒されチェクノフ氏は「解説は、今ご覧いただいた通



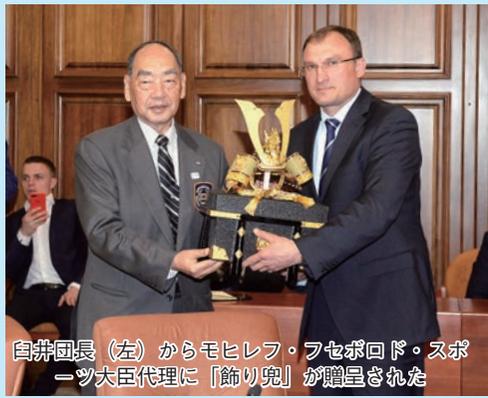
三好諒副領事（左）に記念品を贈呈する自井団長

在ハバロフスク日本国総領事館表敬訪問

派遣団全員で朝10時から在ハバロフスク日本国総領事館を表敬訪問した。最初に、白井団長が表敬の挨拶を行い、三好諒副領事に記念品と日本武道館刊行の書籍の贈呈を行った。続いて三好副領事が歓迎の挨拶を述べ、諸富学副領事、西山美久専門調査員より、ハバロフスク地方の概要について、政治、経済の面から説明を受けた。

ハバロフスク地方政府表敬訪問

午後は、同じく全員でハバロフスク地方政府迎賓館を表敬訪問。数台の取材カメラが回る中、ロシア側は



自井団長（左）からモヒレフ・フセボロド・スポーツ大臣代理に「飾り兜」が贈呈された

モヒレフ・フセボロド・スポーツ大臣代理、ドミトリー・チェクノフ・ハバロフスク州スポーツ体育副大臣ほか、関係者約15名が出席。まず、モヒレフ氏より、



ハバロフスク地方政府迎賓館



ハバロフスク地方政府表敬訪問に臨む団員たち

「日出づる国、日本からお越しくくださった代表团の皆様には歓迎の言葉を申し上げます。ハバロフスク地方ではロシアの伝統武道の人氣が高く、17種類の武道、格闘技があります。そして、これらの愛好者の数は3万5千人を数えます。『日本におけるロシア年』『ロシアにおける日本年』の交流事業は、日露両国間の友好関係に寄与し、事業の参加者の心身の練磨にもなると考えています。こうした事業を実施することが、日露両国の関係発展に寄与し、当地方における武道の発展にも大きな影響を与えると期待しています」と歓迎の言葉が述べられた。

続いて白井団長が、「日本武道館から、錦地ハバロフスク市へ日本武道青年代表団を派遣し、明日は極東国立体育アカデミーにおいて『武道文化セミナー』を、明後日はレーニン・スタジアムにおいて『日本武道演武大会』と『ワーキングショップ』を開催できますことは誠に意義深く、大変光栄なことと思っております。この機会に多くのロシア国民、ハバロフスク市民の皆様へ、日本武道への理解を深めていた



日本人墓地にて

挨拶の後、白井団長が日本から持参した「飾り兜」をモヒレフ大臣代理に贈呈した。モヒレフ氏からは返礼として、ハバロフスク地方のシンボルである木彫りの「熊の像」が贈呈された。

表敬訪問を終え、一行は先の大戦後にこの地へ抑留されて亡くなった多くの同胞が眠る「日本人墓地」と「平和慰霊公苑」を訪ね、団員一人ひとりが墓標に菊花を献じ、線香を手向けて同胞の冥福を祈った。



弓道



なぎなた



空手道



柔道



少林寺拳法



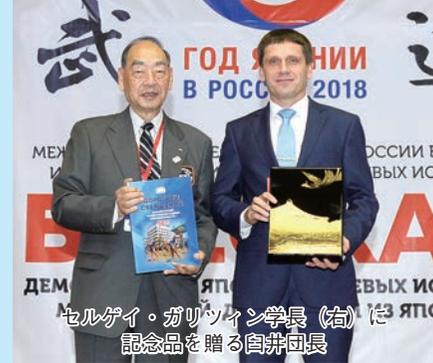
空手道
亀山歩氏による講演

学生による質疑

実演を挟みながら空手道の特色を紹介



武道文化セミナーは200名を越える盛況ぶり



セルゲイ・ガリツィン学長(右)は
記念品を贈る白井団長



極東国立体育アカデミー

10/2

武道文化セミナー

2日は13時30分より、極東国立体育アカデミーで武道文化セミナーを開催した。極東国立体育アカデミーは、創立50余年の歴史があり、オリンピック選手を多数輩出しているロシア極東地域の中心的体育大学である。会場の講堂は開場と同時に200名を超える教員、学生で埋まり、ギャラリーには立ち見の学生が出るほどの盛況ぶりだった。

開会式ではまず、セルゲイ・ガリツィン学長が、「日本武道青年代表団の皆様を歓迎します。日露両首脳が合意した『ロシアにおける日本年』『日本におけるロシア年』の事業の目的は、日露の文化交流で両国の絆が深まることにあります。今日は空手道の講演と武道の演武大会が見られるので非常に楽しみです。たくさんの方の皆様にお越しいただきありがとうございます」と挨拶を行った。

続いて、白井日出男団長が主催者挨拶を行い、「極東国立体育アカデミーの皆様

に、日本の『武道』をご紹介出来ますことを何より嬉しく思います。日本の武道文化セミナーでは、空手道の亀山歩^{あゆみ}先生の講演と、各道の演武をご披露いたします。これを機に、ロシアと日本の絆がさらに強固なものとなることを心より祈念申し上げます、ご挨拶いたします」と述べた。

続いて、白井団長よりガリツィン学長へ記念品と日本武道館刊行書籍の贈呈式を行った。

開会式終了後、会場が整えられ、空手道の団員責任者・亀山歩氏による「武道の特色と魅力―空手道の形を通じて―」の講演が行われた。

講演の内容は、空手道の歴史、多様な流派の存在について説明した上で、大木、牛島両団員による「形」と「組手」の実演を挟みながら、競技化と流派の特色を説明した。空手道の魅力は、「形」稽古を通じた先人の思い、形に秘められた意味と奥深さを発見することが出来る点にあるとし、結びに、「空手道の伝統を後世にしっかりと伝えるために、これからどう引き継ぎ、発展させていくかが大きな課題である」と締めくく

った。

続いてミニ演武会が行われ、空手道から順に現代武道全9種目を披露した。会場の学生たちは携帯電話のカメラで動画や写真を撮影しながら、各道の迫力ある演武を鑑賞、時折感嘆の声を上げながら熱心に演武に見入っていた。

全演武終了後、各道代表者が壇上に立って、質疑応答が行われ、「相撲を学びに行きたいが、可能か」な

ど率直な質問も飛び出すなど、若者らしく活発なやりとりが行われた。定刻、白井団長から閉会の挨拶があり、盛況の裡に閉幕した。閉会後には、出席した学生たちに団員から記念品の武道館タオルがプレゼントされた。解散後も、各道演武者に何人もの学生たちが技のかけ方を習いたいと説明を求めたり、写真を撮ったりして、大いに交流を楽しんだ。

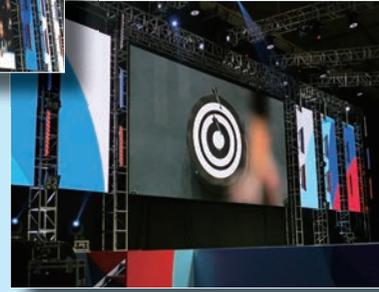


記念品をプレゼントする団員たち





弓道



場内巨大スクリーンには演武の様相をそのまま映写



なぎなた



少林寺拳法



門倉俊明在ハバロフスク
日本国総領事館首席領事



白井日出男団長



セルゲイ・コシロフ
ロシア連邦スポーツ省次官



開会式



会場となったレーニン・スタジアム



会場には2000名を超える観衆が詰めかけた



スタジアムに入場する観客たち

10/3

武道演武大会

3日はレーニン・スタジアムで、武道演武大会・ワークショップが開催された。団員は入場のタイミングや演武時間の調整、内容の確認など、ギリギリまでリハーサルを行い本番に備えた。17時に開場すると、人々が三々五々集まりはじめ、18時前には会場を埋め尽くす観客と、会場外のモニター画面で見学する観客を合わせて、2000名を超える観客が集まった。

定刻より約10分遅れで開会式が始まった。勇ましいBGMの中、団員が入場。会場内の正面に設置された巨大スクリーンに今回の事業紹介映像が流れ、続いて、役員、来賓がステージに登壇した。

まず、ロシア側を代表して、セルゲイ・コシロフ・ロシア連邦スポーツ省次官が、

「これより、日本武道青年代表団による日本武道演武大会が開催されます。そして、今月末と来月のはじめにロシアを代表する武道演武団が日本の那覇市と姫路市でロシアの伝統武道を披露することにもなっています。

す。『ロシアにおける日本年』『日本におけるロシア年』のスポーツ事業と本日開催する演武大会は、日露友好を目的とした事業であり、日露の文化対話や協力が進んでいる証でもあります。皆様のご多幸を祈念するとともに、武道代表団の皆様には気迫のこもった演武を披露していただきますようお願い申し上げます」と歓迎の挨拶を述べた。

次に、主催者を代表して白井日出男団長が、

「今回の日本武道青年代表団のメンバーは、40歳以下の、いずれも未来の日本武道界を担う一線級の指導者や選手であります。本日は現代武道9道のそれぞれ磨きぬかれた技と心をご鑑賞いただきたいと思っております。

また、演武披露の後には、武道を体験する時間も設けてあります。この機会にぜひ皆様に日本の武道に親しんでいただき、実際に肌で感じていただきたいと思っております」と挨拶を行った。

続いて、門倉俊明在ハバロフスク日本国総領事館首席領事が、

「日本の武道は自己防衛として生まれてきたものですが、現在では教育



ワークショップ全景



空手道



相撲



銃剣道



合気道



柔道



剣道



合気道



テレビ局のインタビューを受ける
滝沢元気氏（銃剣道）



体験武道（柔道）



ワークショップ

閉会後はワークショップとなり、客席で見ていた観客がアリーナに降り、各武道の体験会が行われた。ワークショップ参加者は団員の指導を仰ぎながら演武用具に触れたり、扱ってみたり、一緒に写真を撮ったりするなど、武道を通じた心の交流に花が咲き、定刻、盛会の裡に武道演武大会・ワークショップは終了した。

歓迎パーティー

演武大会・ワークショップ終了後には、レーニン・スタジアムの目の前にあるインツォーリストホテルでロシア側主催の歓迎パーティーが開かれた。

両国代表の挨拶の後、(株)ミツボシより提供された竹刀10本と柔道衣・空手衣各10組が白井団長からモヒレフ大臣代理に贈呈された。

祝宴は夜遅くまで続き、団員たちは声高々に「ビービエム（飲むう！）」とロシア語を発し、演武大会の成功を祝って杯を上げていた。



ロシア側主催の歓迎パーティー



撲団員を土俵から押し出したり、柔道団員を投げると場内は拍手喝采で称え、大盛り上がりとなった。
興奮冷めやらぬ中、閉会式となり、白井団長が「本日の演武はいかがでしたか？」と呼びかけると、場内に大きな拍手が沸き起こった。「その拍手が何よりの贈り物です」と謝辞を述べて演武大会は閉会した。



大会はリアルタイムで全世界に配信された



場外の電光スクリーンにも演武の様子が映し出された

的要素も持ち合わせており、日本国内だけでなく、海外でも武道は広く普及しております。ハバロフスクでも柔道、空手道の武道が盛んに行われています。「ロシアにおける日本年」及び「日本におけるロシア年」をきっかけに日露関係がさらに発展しており、ここハバロフスクにおいても、その枠組みで様々な行事が実施されております」と来賓を代表して祝辞を述べた。

次に、日露両国の国歌が吹奏され、開会式が終了した。

開会式が終わると、9武道の演武に移った。演武大会の様相がインターネットを通じてリアルタイムで世界に配信される中、弓道、なぎなた、少林寺拳法、銃剣道、相撲、剣道、合気道、空手道、柔道の順に、各6分間、演武が披露された。各道の団員が力強く堂々とした演武を披露すると、場内の観客からは、それに応えるような大きな拍手が沸き起こった。相撲と柔道の演武の後には、体験武道の時間が設けられ、地元の子供・青年たちが、相撲の取り組みや柔道の投げ技を体験。子供たちが相

10/4

交流指導稽古会、市内視察

午前中は、柔道、剣道、空手道、合気道の4種目が地元武道団体との交流指導稽古会を行い、それ以外の団員は市内を見学。午後からは交流指導稽古会を行った種目の団員も合流してハバロフスク市内を巡り、リラックスした表情で深まる秋の極東ハバロフスクの街並を楽しんだ。



合同稽古会（剣道）

解団式

18時から市内のレストランで、ロシア側関係者を招いて解団式が行われた。解団式では、白井団長より、「今回の派遣事業の成功の陰には、数えきれない方々のお力添えがあったことを私どもは忘れてはいけません。お互いに色々な思い出を語り合いながらひとときを楽しんで過ごそうではありませんか。皆様方のご努力に対して心より感謝を申し上げます、開会の言葉といたします」と労いの言葉が述べられた。次に、来賓を代表して、ドミトリー・チエクノフ・ハバロフスク州スポーツ体育副大臣が、「事業に関わった各位に感謝の言葉を申し上げます。日本からいらつしやうした演武者の皆様にも御礼を申し上げます。日本武道館には、今後も伝統を守りながら全世界に武道を披露してほしいと思います。皆様が今回ハバロフスクに来ていただいたことで、ハバロフスク地方民はロシアにいなながら日本に触れることが出来ました。本当にありがとうございます」と挨拶を行った。



ロシア武道連盟幹部を招待し解団式で交流



解団式で祝杯を上げる

続いて、門倉俊明在ハバロフスク日本国総領事館首席領事が、「今回、大変貴重な会をハバロフスクで開催していただきまして『ロシアにおける日本年』でも非常に重要な行事となりました。演武者の一挙手一投足に対して、どよめき、歓声が上が

がるのを聞いておりました、ハバロフスクが開催地として選ばれたことが正しかったと強く感じました。ご協力をいただきましたことに對しまして、在ハバロフスク日本国総領事館、外務省を代表して御礼申し上げます」と感謝の言葉を述べた後、乾杯の発声を行った。

解団式にはチエクノフ・スポーツ体育副大臣の外に、ロシア側関係者も約30名出席し、本交流事業の成功をとともに喜び、祝いの声、盛会裡に会は終了した。

翌5日、派遣団は予定の行程を全て終え、団員全員が無事に帰国した。（記録）日本武道青年代表団ロシア連邦派遣事業プロジェクト事務局 鈴木 智也



チエクノフ・スポーツ体育副大臣インタビュー



今回の交流事業実施に向け、本年3月からロシア側受け入れの中心的役割を担ったドミトリー・チエクノフ・ハバロフスク地方政府スポーツ体育副大臣に訊いた。

▼演武大会・ワークショップの感想はいかがでしたか？

「今まで、武道についてたくさん情報を知ることができ、本を読んだこともありますが、実際に修行者に会ったことはありませんでした。今回見た日本武道青年代表団の演武大会は、自分が想像していたものとは全く違っていました。私は演武大会というものは、単にステージに出て技を見せ、終われば退場するだけのものだと思っていました。ですが、今回見た演武大会は、それだけではなく、演武者の魂を、武道への強い思

いを見ました。感情を込めて演武をしていただきました。そのことに非常に感動しました。演武大会とワークショップを拝見して、日本でも最高クラスの演武者が来たことが分かりました。技術はもちろん、それ以上に伝統、習慣を守り、相手に敬意を払っていることが伝わりました。2時間以上続いた演武大会・ワークショップはあつという間に過ぎました」

▼準備にあたって苦労したことは？

「私たちにはアイデアがたくさんあつて、それを日本側と詰めて合意にするのが難しかったです。単にアリーナを用意して設備を整えることは難しくありませんでした。しかし、大きな音響、照明を使って演武大会を行うのは初めてだったので、組み合わせるのが難しかったです。日本では、武道が演武を行うときには、大きな音を流さないとダメです。大きな音を入れすぎてこの演武大会の趣旨を損なわないか心配してしまいました。そこをすり合わせることに苦労

▼これからの日露交流についてお聞かせください。

「ハバロフスク地方は昔から日本の都道府県と交流を進めています。現時点での課題は、10月末から日本の那覇市と姫路市にロシア武道団を派遣することです。このような事業は演武者のスキルアップのきっかけになりますし、交流のための最高の場になっているのではないかとも思っています」

▼ハバロフスクの新施設建設の予定についてお聞かせください。

「70m×40mの大道場のほか、小さな道場が6つある。大きなスポーツ事業が出来る施設です。ハバロフスク地方で活動している武道種目の多くが、ここで稽古や大会を行うことになりました。2020年に竣工の予定です。完成したら、もう一度日本武道館の演武大会を開催させていただきます（笑）」

◎派遣団員名簿 ※敬称略

- ◇団長 白井日出男（日本武道館理事長）
- ◇団長秘書 原雄一郎
- ◇日本武道館プロジェクト事務局 吉野喜信、田谷将俊、鈴木智也
- ◇柔道 奥嶋曜（五段）、石川俊輔（五段）、上坂正語（六段）、池田広樹（五段）
- ◇剣道 中野貴裕（錬士七段）、森祐輔（錬士七段）、亀井隼人（錬士六段）、村瀬諒（五段）
- ◇弓道 吉田志（錬士六段）、橋本隆志（五段）、大森亮登（錬士六段）、飯山雄介（教士六段）
- ◇相撲 橋本怜史（参段）、児嶋重憲（参段）、川田大和（参段）、永野蒼志（参段）
- ◇空手道 亀山歩（五段）、志水亮介（四段）、大木格（五段）、牛島有人（四段）
- ◇合気道 日野皓正（伍段位）、鈴木昂平（弐段位）、本澤直季（初段位）、須田拓也（初段位）
- ◇少林寺拳法 岡田俊介（正拳士五段）、坂田浩司（正拳士五段）、吉田将則（正拳士五段）、矢原孟（正拳士四段）
- ◇なぎなた 大倉直子（錬士）、吉原涼子（五段）、宮崎綾（五段）、中島由美子（五段）
- ◇銃剣道 滝沢元気（錬士六段）、鈴木崇之（錬士六段）、飯嶋一（錬士六段）、野田峻祐（五段）
- ◇通訳 ジノフ・アレクセイ（日露青年交流センター）、竹下尚宏（日露青年交流センター）
- ◇記録 後閑信弥（株クレスト）